農村ニュース（2013年2月4日）

てん菜とてん菜糖

北海道てん菜協会専務理事　丹下良彦氏

機械で改善策を

作付面積減少の危機に

ビートの収穫、運搬

北海道農業機械工業会では、新年交礼会に先がけて恒例の新春特別講演会を行った。今年は北海道てん菜協会の丹下良彦専務理事が、「てん菜とてん菜糖」との演題で講演。「てん菜は他の畑作物と比べても収量が安定し所得が高かったが、近年になり夏の高温や雨が多くなったこともあり不安定になってきている。また、作業の大変さもあり作付面積の減少や規模拡大への限界など、厳しい状況」と、生産状況や政策支援などを通じた課題を挙げ、機械化による改善策などを論じた。

「現在、てん菜は非常に苦労している」と丹下良彦専務理事が冒頭で述べた上で、てん菜とてん菜糖の現状について論じた。以下講演要旨。

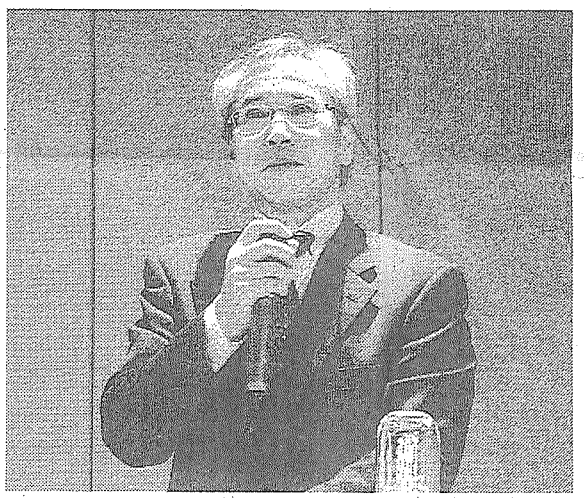
【北海道てん菜協会について】設立は昭和61年9月29日で、てん菜の糖分取引への移行に伴い、取引の円滑な推進を図るため、生産者と糖業者の中立機関として発足。現在普通会員15名と特別会員3名で、主な事業概要は、原料てん菜の受け渡し及び糖分測定立会事業をはじめ、試験研究、普及啓発、種子対策、調査研究などの各事業。

【てん菜について】別名砂糖大根とも呼ばれるてん菜の学名は、ベタ・ブリガリス。アカザ科フダンソウ属の多年草で原産地は地中海地方。2年目の6月頃に花を咲かせ、8・9月には裸種子となり収穫。収穫した種をコーティングし生産者に種として届けるというサイクル。北海道畑作農業における位置づけを平成19～22年の平均で見ると、総面積の2割、生産額でも25%を占めている。ただ、生産状況は平成7年では7万haだったものの、平成24年には5万9200haと15%も減少。最近は夏の高温、降水量が増えたことで収量共に糖分の変動が大きくなるなど、不安定になっている。

作付農家戸数は減少しつつも作付面積は7ha前後で推移するようになり、作付規模の拡大が限界になってきていると感じる。しかし、他の作物と比較しても10アール当たり2万7・8千円程度の所得があり、働いた分だけ見返りのある作物ということで作付面積確保に尽力している。

【てん菜に関する政策支援】現行の制度は、対象作物の生産数量目標に従い生産を行った「販売農家」と「集落農家」に対して、全国一律単価で交付金を交付。交付金は2種類あり、営農継続支払の交付と、販売数量が明らかになった段階で、数量払いの交付額を確定して営農継続支払との差額を追加払という方法が採られている。てん菜の品質加算を含めた数量払の交付金単価は糖度に対応して加算するやり方で、17・1度を基準にt当たり6410円で算出。糖度が0・1度増えれば基準金額にプラス62円加えて計算し、逆に糖度が少ないと引いて計算される。営農継続支払いは前年度の生産面積を基準に支払われ、交付単価は10アール当たり2万円。最終的には数量払と営農継続支払のいずれか高い額が交付されている。

【砂糖について】国内需給は平成23年が32%と力ロリーベースで日本の食糧自給率に大きな役割を担っている。世界の砂糖一人当たりの消費量では世界平均が約24kgと横ばいに対し、日本は約18kg。最大の消費国はオーストラリアの約47kgで、中国は約11kgだが増加傾向にある。道内で砂糖を製造しているのは日本甜菜製糖にホクレン、北海道糖業の3社で、計8カ所の地域に工場がある。ただし、作付の減少で経営的にも厳しくなり、合理化を進めているのが現状。



講演する丹下氏

【まとめ】てん菜の作付面積の減少、規模拡大の限界など問題が生じている。その結果、畑作輪作の崩壊の危惧が現実的になってきており、全体の生産力低下につながる恐れも指摘されている。しいては製糖工場の操業度の低下につながり、地域経済に打撃といった問題も表面化してきている。その改善策として述べたいのが酪農家との連携強化による新規作付者の拡大確保。近年ではビートトップをサイレージ化する技術が確立しつつある。だが、そのビートトップをいかに効率よく収穫するかが問題で、以前はビートトップハーベスタという機械が過去にあったが、最近は出回っていない。こうした機械の開発について是非力をお借りしたい。また、直播栽培技術も労働力の問題や面積拡大という点で真剣に考えなければならない。

24年度補正予算で、てん菜機械も助成対象に含まれた。てん菜生産に必要な農業機械のリース事業が設けられ、これにより、サトウキビや甘藷、でんぷん用馬鈴薯と共にてん菜も対象となり総額は10億円、3戸以上の共同利用に対して2分の1助成されることになった。また、「強い農業作り交付金」でも24年補正と25年の本予算併せて400億円以上を計上されており、要望の取りまとめを行っている。

てん菜とてん菜糖業は一心同体であり、今後も皆様よりご協力ご支援をいただきながら努力をしていきたい。

スポットアップ